

平成27年7月31日

鹿児島大学病院 泌尿器科 で

尿膜管疾患と診断された患者さんへ

( 臨床研究に関する情報 )

鹿児島大学病院泌尿器科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】 九州地区における尿膜管疾患の診断と治療  
(多施設共同研究)

【研究機関】 鹿児島大学病院 腎臓・泌尿器センター 泌尿器科

【研究責任者】 中川 昌之 (泌尿器科・教授)

【研究の目的】

胎児期の赤ちゃんは、臍の緒を通じて物質のやり取りをするために、膀胱から腹部を通り臍に繋がる管があります。この管を尿膜管と言います。一般に尿膜管は、出生時に自然に閉鎖されると言われていますが、何らかの原因でこの管が残存することがあります。

尿膜疾患には、残存した尿膜管が膨らんだり、感染を起こしたり、腫瘍が発生する疾患が含まれますが、尿膜管疾患は稀な疾患であり、患者さんの数や発症の時期などについて調べた報告はなく、どのような種類の病気が多いのか、治療の方法や治療後の経過など、実態は分かっていません。そこで、佐賀大学を中心に、九州・沖縄地区

における尿膜管疾患の年次推移、臨床的特徴、画像診断について調査し、尿膜管疾患の現状・実態を把握することで、診断や治療についての有用な情報が得られると期待されます。

## 【研究の方法】

診療録（カルテ）から、以下の情報を収集して分析します。集めたデータを、この研究の中心的な役割をしている佐賀大学に送ります。佐賀大学に提出する情報には、個人を直接特定できる項目は含みません。

### ●対象となる患者さん

平成 17 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までに、鹿児島大学病院泌尿器科を受診され、尿膜管疾患と診断されたすべての患者さんを対象としています。

### ●診療録（カルテ）から利用する情報

初診時年齢、性別、主訴、初診日、診察日、診察所見、検査所見（尿検査、細菌培養検査、血液生化学検査、尿細胞診）、画像所見（CT、MRI、膀胱造影などによる腫瘍長径、転移の有無）、膀胱鏡所見、臨床診断、治療法、手術日、術式、病理診断、治療後経過観察期間、予後

## 【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、佐賀大学医学部泌尿器科の研究費で実施します。企業等からの寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 腎臓・泌尿器センター 泌尿器科

助教 井手迫 俊彦

電話 099-275-5860 FAX 099-275-9727